

稿を作る訳です。もし、データを全て発表してしまった場合でも、項目Ⅰの原稿だけは送るよう推奨されます。昨年度に変更のない場合は、項目Ⅰは自動的に再録されることになります。この未発表データ集の中から自分に必要な物質を見付け出す Index も見事に整理されております。ただし、次年度より物質名インデックスのフォーマットを図2のように変更したい旨、Freeman 教授より申入れがありました。

熱測定学会の古い会員及びそのグループには、例年こ

の投稿案内を継続的にお送りしていますが、比較的新しく熱測定を始められた方（グループまたは個人）も、是非この機会にBCTに登録されるようお奨め致します。世界のどんな国に、どのようなグループがどんな研究を目指しているかを眺めるだけでも楽しい読物です。投稿案内の必要な方は下記にご連絡下さい。

BCT作業グループ 主査
大阪大学理学部化学教室
菅 宏

レポート

ACS 熱分析講習会に参加して

American Chemical Society 主催による熱分析講習会が、1988年2月20日、21日に米国ニューオリンズのホテルシェラトンで開催された。今年は年4回米国、カナダ各地で熱分析講習会が行なわれる予定であり、今回参加したものは2月22日～25日に開催されたThe Pittsburgh Conferenceに日程を合わせたものであった。

講師はE.A. Turi 教授、P.K. Gallagher博士、J.C. Seferis 教授の3名で、講習内容は、E.A. Turi教授が高分子を対象とした測定法および解析法、P.K. Gallagher博士が無機物を対象としたTG、EGA、TG/F T-IR等の応用例の紹介、J.C. Seferis教授が、ポリマー複合材料を対象とした粘弾性測定例が主たる内容であった。一般的な話から、超伝導物質の様な最新の話題まで内容の豊富なものであった。

聴講者は50名で、土・日曜日にもかかわらず、熱心に講義を受けており、日本の講習会と異なり、講義途中でも多くの質疑が飛び交い、米国における熱測定利用の活発さを印象づけられた。

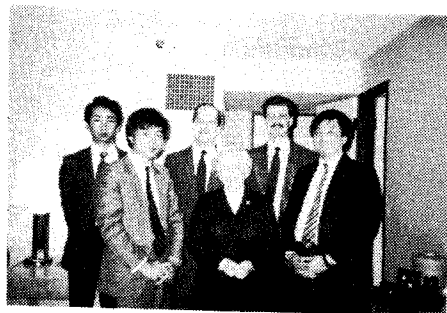
また1日目の夕方5時半からは引き続き、立食パーティー形式による懇親会兼装置展示が行なわれた。会場は講習会の行なわれた隣の室で、聴講者のほぼ全員が参加された。展示メーカーは7社でPerkin-Elmer Co., Du Pont Company, Mettler Instrument Corp., Omnitherm Corp., Cahn Instruments, Astra Scientific Inc. (Setaram), セイコー電子工業(株)の各社である。セイコー電子工業は日本の熱分析メーカーとして初のACS

講習会展示出展であり、出品したSSC5000シリーズ熱分析システムは大きな注目をあびた。質問も、TGの精度に関するもの、DSCの比熱精度に関するもの等、専門的な質問も多く、3時間以上の展示時間も知らぬ間に過ぎていた。立食パーティーのワインの所為か、始まる前感じた緊張感も、終始なごやかでかつ活気あふれるムードに溶け去り、日本での展示会とは一風違う良さを感じた。

なお各メーカーの出品装置は以下の通りであった。

Perkin-Elmer; DSC, DuPont パネル展示, Mettler: DSC, TG, Omnitherm Corp.: DSC, Cahn Instruments: TG, Setaram: コントロールステーション, SEIKO: 5000シリーズ DSC, TG/DTA, TMA。

(セイコー電子工業(株) 市村裕, 木下良一)



E. A. Turi 教授と筆者ら
(左より、筆者市村、木下、1人飛ばし中央
E. A. Turi 教授)